週刊 地震ニュース

No.215

1月1日 ～ 1月7日

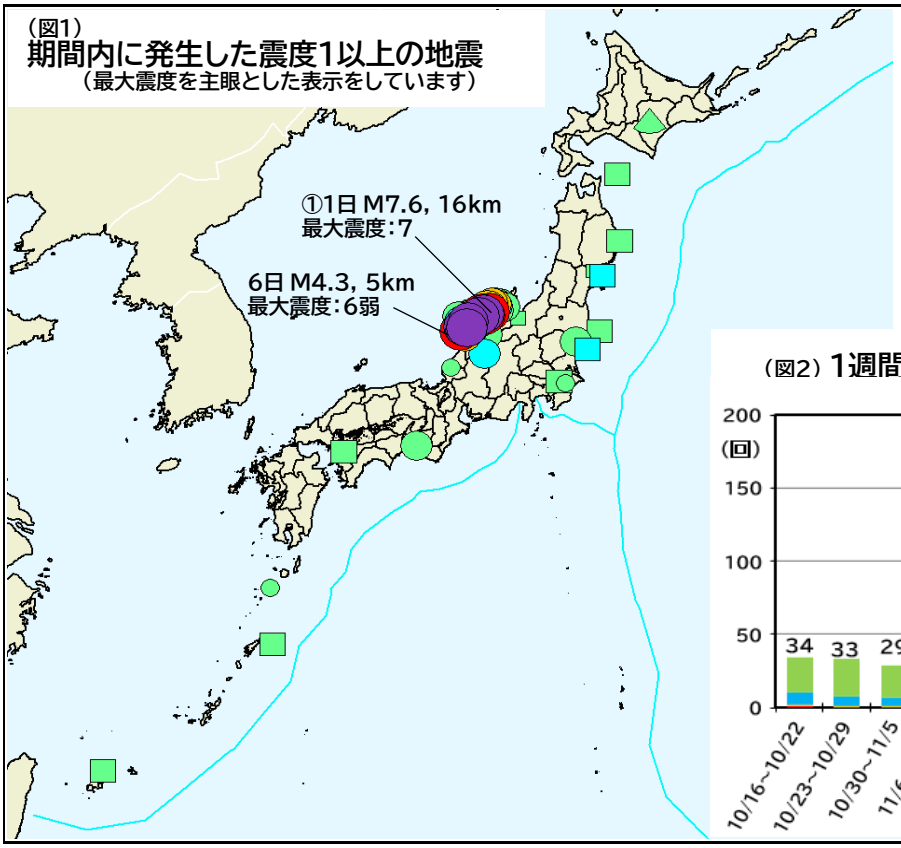
NPO法人 環境防災総合政策研究機構

2024年1月8日 発行

この期間の最大震度は7（能登半島で被害甚大）

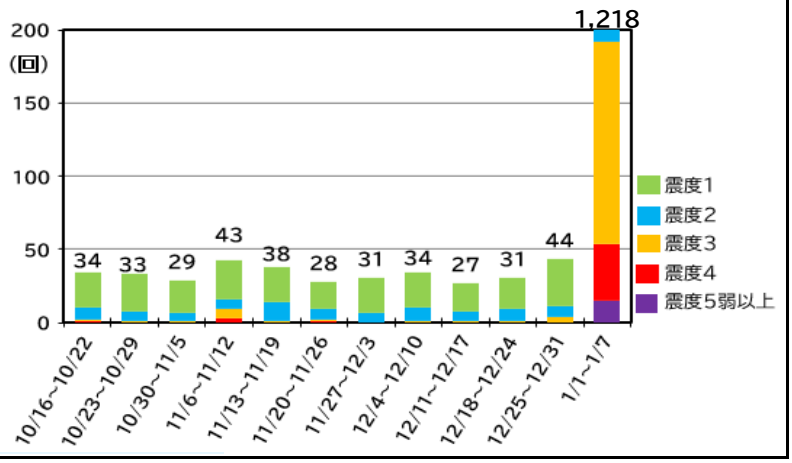
本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの　（出典:気象庁震度データベース/地震情報）

（図1）
期間内に発生した震度1以上の地震
（最大震度を主眼とした表示をしています）



最大震度	マグニチュード	深さ(km)
震度5弱以上	7.0	0
震度4	5.0	30
震度3	3.0	90
震度2		
震度1		

（図2）1週間毎の最大震度別地震発生回数



主な地震の発生状況（図1,図2参照）

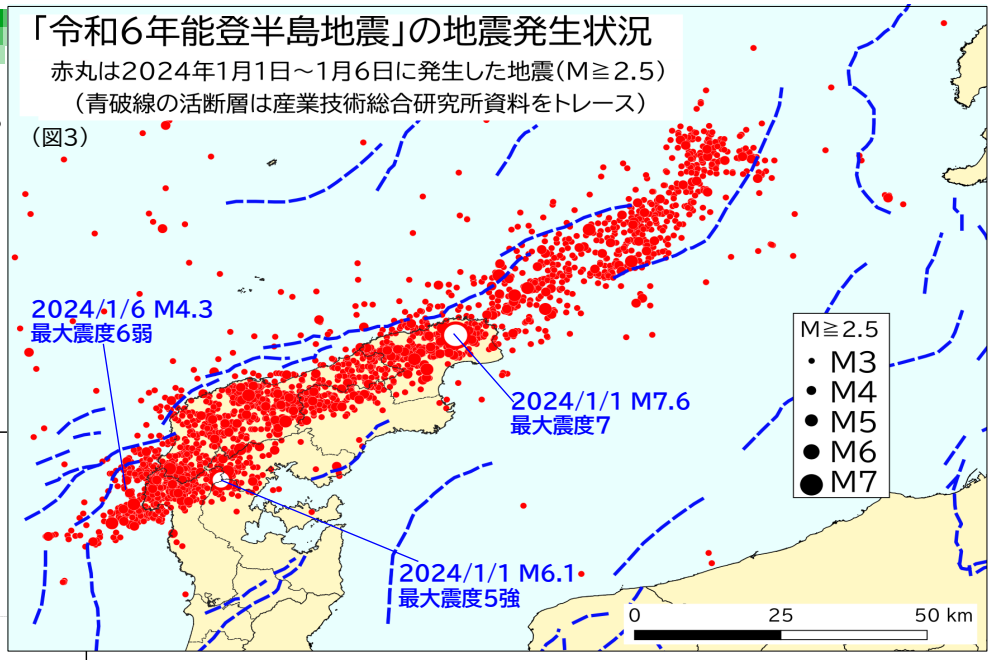
■ この期間、震度1以上の地震が1,218回発生。最大震度は7（最大震度5弱以上が15回）。■
①1月1日16時10分に石川県能登地方で発生した地震（M7.6、深さ16km）により、石川県志賀町で震度7を観測したほか、北海道から九州地方にかけての広い範囲で震度6強～1を観測。死者100人を大きく超える甚大な被害が発生した（トピックス参照）。

トピックス

■ 能登半島の地震活動 ■

・1日の地震は地殻内で発生した逆断層型。
・1日以降の地震活動は北東－南西に延びる約150kmの広い範囲に広がっている（図3）。
・最大加速度は、石川県志賀町の観測点（K-NET富来）で観測した2,828gal（三成分合成）。
・地震の発生数は時間経過と共に減少しているが、現在も活発な地震活動が継続している（図4）。　（次頁に続く）

「令和6年能登半島地震」の地震発生状況
赤丸は2024年1月1日～1月6日に発生した地震（M≧2.5）
（青破線の活断層は産業技術総合研究所資料をトレース）
（図3）



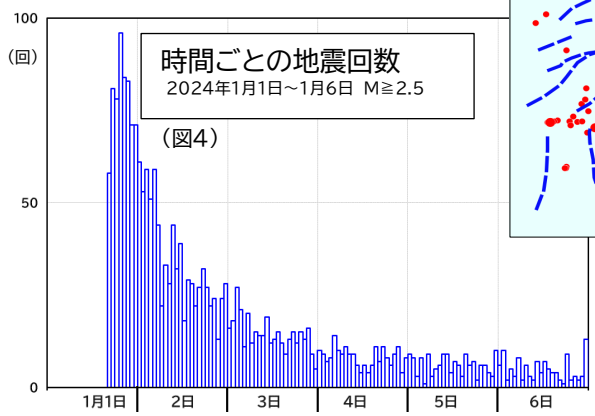
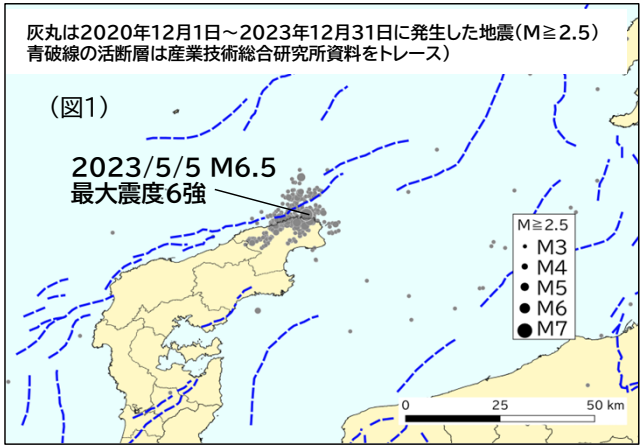


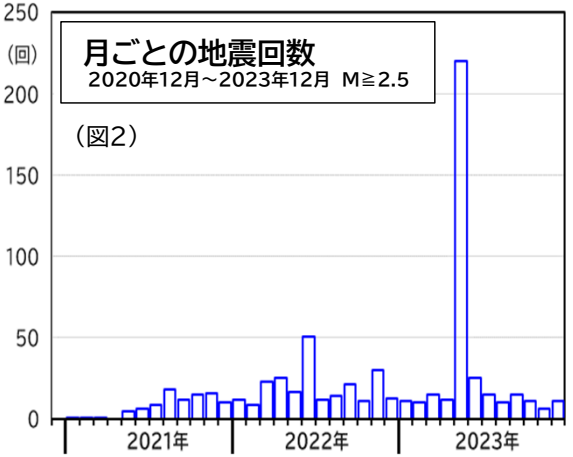
図3:能登半島の震央分布図 （M≧2.5） 2024年1月1日～2024年1月6日
図4:時間ごとの地震発生回数の変化図 （横軸:時間　縦軸:回数）

表1:最大震度別回数（1月1日～8日13時）

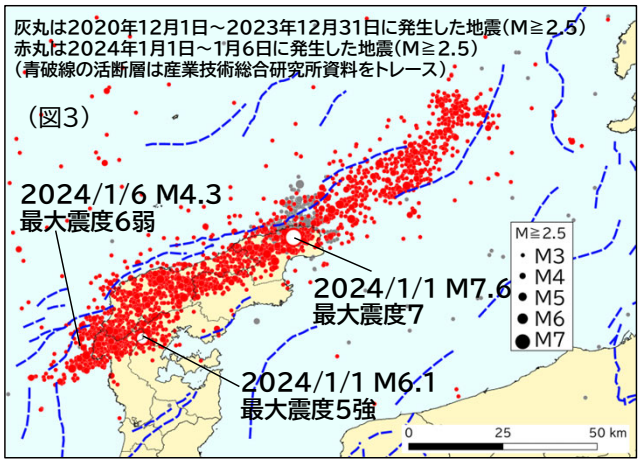
最大震度	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	合計
回　数	684	343	138	39	6	7	1	0	1	1219

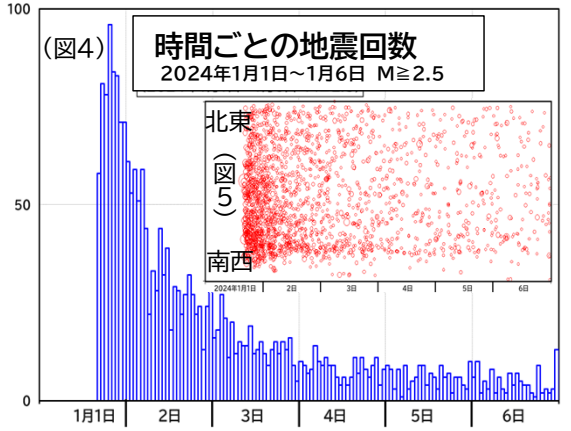
・今回の地震が発生した能登半島北東部では2020年12月から地震活動が活発になり、2021年7月頃から更に活発になっていた（図1、図2：震度1未満も含む）。
・この中で最初に震度1以上を観測したのは2021年1月19日に珠洲市で震度2を観測した地震であり、2021年1月1日～2023年12月31日までに最大震度1以上を観測した地震が506回、最大震度3以上を観測する地震が67回発生した。
・このうち最大の地震は、2023年5月5日に発生したM6.5の地震で、珠洲市で震度6強を観測した。以降、地震活動がさらに活発になっていたが、発生場所は能登半島北東部に限られ、時間の経過とともに地震の発生数は減少していた（図1,図2）。





・このような中で、1日16時10分に発生した地震（M7.6、深さ16km）により石川県志賀町で震度7を観測した。
・この地震は地殻内で発生した南東側に傾斜している逆断層型の地震で、活断層の位置と後述する能登半島北部の地盤隆起との関係が調和的と考えられます。
・今回の地震で観測された最大加速度は、震度7を観測した志賀町のK-NET富来（とぎ）観測点で観測された2,828gal（三成分合成）。
・この地震後、地震活動が活発となり16時18分頃にM6.1の地震（最大震度5強）などが発生するなど活発な地震活動が継続している（1月6日のM4.3によりK-NET富来観測点で観測された最大震度6弱は別要因によるものと推測）。





・一連の地震活動域は佐渡島の西方から能登半島の西方にかけての約150kmの広い範囲に広がっており（図3）、この広い範囲の中の全域で地震活動が続いているため、数多くの地震が発生しているが、最近は西側の活動が多い（図4、図5（時空間分布図））。
・震源が浅いことから足元で地震が発生しているようなものでMが小さくとも大きな震度になってしまうので、避難生活や復旧作業にあたっている能登半島の広い範囲で引き続き大きな揺れに伴う新たながけ崩れや家屋倒壊などの被害発生に警戒が必要。
・この地震では、石川県の輪島港で1.2m以上（速報値）の津波を観測するなど、北海道から九州地方にかけての日本海沿岸で津波を観測した。
・今後も、海域で規模の大きな地震が発生する可能性もあり、その場合には津波が発生することもあるので、海岸付近で大きな揺れを感じた場合には、速やかに高台など安全な場所への避難を心がけて頂きたい。

輪島市名舟漁港付近の地盤隆起（国土地理院）➡
・国土地理院によるGNSS観測によると、能登半島北部の広い範囲で地面が隆起する地殻変動が観測されている。
・名舟漁港付近の広い範囲でも海底の隆起がみられる。
・漁船の船底が海底に接してしまっているようだ。
・このような地殻変動が能登半島北部の各地で見られる。